

【弁天娘女男白浪】 雪の下の浜松屋へ美しい武家の娘と供侍がやってきて、婚禮の品物の品定めを始めますが、娘が万引きをしたと思つた番頭は、娘の額に傷を負わせてしまいます。ところが娘の懐から出てきたのは他の店の品。店の若旦那、浜松屋宗之助(菊之助)が詫びても、来合わせた鳶頭の清次(團藏)が仲立ちをしてもおさまらず、店の主人浜松屋幸兵衛(東蔵)は供侍に百両を渡します。しかし奥から玉島逸当という侍が現れ、娘が男であると見顯します。実は娘は世間で評判の盜賊、白浪五人男の弁天小僧菊之助(菊五郎)で、供侍は同じく南郷力丸(吉右衛門)でした。堂々と正体を明かして二人は帰っていきませんが、この逸当こそ盜賊の首領、日本駄右衛門(幸四郎)で、先ほどの騒ぎも浜松屋の金を全て奪い取るための策略でした。悪事を重ね、耳目を集めた五人男でしたが、遂に追手が迫ります。覚悟を極め、稲瀬川の土手に勢揃いした駄右衛門、弁天小僧、南郷、赤星十三郎(梅玉)、忠信利平(左團次)は、後日の再会を約束して別れ別れに落ち延びていくのでした。おなじみの七五調の名台詞も満載の、河竹黙阿弥の代表作を上演します。